

令和6年度 学校評価

そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ わからない ■

(1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進		考察
<p>1 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進</p> <p>学校は、豊かな心と健やかな体を育む教育の充実に努めていると思いますか。(感動・感謝、郷土愛、いのちを大切にすること、こどもの体力向上、基本的な生活習慣など)</p> 	<p>2 自ら学びに向かう力を育む教育の推進</p> <p>学校は、こどもが自分で考え、自分から取り組む授業づくりに取り組んでいると思いますか。</p> 	<p>考察：「豊かな心と健やかな体を育む教育の推進」については、保護者の97%、児童の94%から【4】または【3】の評価を得ている。これは、11月の心かがやけ月間における取り組みや、2年連続となった「体力向上優秀賞」の受賞、地域からもお褒めの言葉をいただくあいさつの効果等であると考えられる。一方で、「自ら学びに向かう力を育む教育の推進」については、教職員の59%が【4】と回答しているのに対して、児童の17%は【2】以下の評価をしている。今後、授業づくりの様子等を掲示物や各種便りを通して発信していくように努めたい。</p>
(1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進		
<p>3 社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力を育む教育の推進</p> <p>学校は、学校生活や地域社会をよりよくするために考えたり、行動したりすることの育成に、取り組んでいると思いますか。(児童会・生徒会活動、学校のまわり見直し、地域のよさを伝えたり課題解決したりする取組、ナイスライ(中学校)など)</p> 		<p>考察：1学期末、6年生児童が計画を練り、何度も修正しながら実現した「学校かくれんぼ」の取り組みを通して、学校生活をより良くするために主体的に考え行動する素晴らしさを価値づけることができました。また、「気づき、考え、行動する」という学校目標について、特に高学年児童が意識を高めて生活している様子は随所に伺える。しかしながら、約3割の児童は否定的な回答をしていることから、学校だけの取り組みではなく、地域とを結びつけた取り組みを推進しながら、達成感や成就感を味わわせることが必要だと考える。</p>
(2) こども一人一人を尊重した教育の推進		
<p>4 5 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実</p> <p>学校は、こどもが、学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学ぶ授業づくりを行っていると思いますか。</p> 	<p>学校は、こどもが、対話などを通して、他の人の考えや意見を自分の学びに生かすような授業ができていると思いますか。</p> 	<p>考察：「個別最適な学びのある授業づくり」について、保護者の13%が【0】と回答していることから、学級通信等により授業や学校生活に関する内容を発信したり、学期に最低1回は授業参観の機会を設定したりする等、子どもの様子や授業での取り組みをより積極的に伝えていく。また、「協働的な学びのある授業」については、【4】と評価した教職員は4割程度であることから、他の人の考えや意見を自分の学びに生かそうとする児童の育成をめざして、協働的な学びのある授業づくりに努めたい。</p>
(2) こども一人一人を尊重した教育の推進		
<p>6 特別支援教育をはじめとする多様な教育的ニーズに対応した支援の充実</p> <p>学校には、こどもが助けを必要とするときに、先生や友達から支えてもらえる温かな雰囲気があると思いますか。</p> 	<p>7 インクルーシブ教育の推進</p> <p>学校では、こどもがそれぞれの違いを認め、お互いを尊重し合って共に学び合っていると思いますか。</p> 	<p>考察：昨年度のアンケート項目であった「学校の支援体制」「共生社会を担う人材の育成」の結果と比較してみると、保護者の【4】や【3】と回答した割合が1割近く増加している。これは、登校渋りや不安や悩みを抱えた児童の対応について、職員間での情報共有と共通理解に努め、担任以外の複数で関わったり、教室以外の居場所づくりに努めてきた成果であると考えられる。今後は、お互いを認め合い、尊重し合う児童の育成に役立てるためにも、多様性を認めながら相互理解を大切にする雰囲気づくりを大切にしていきたい。</p>

(3) 最適な教育環境の整備

<p>8 安全・安心な園づくりの推進</p>	<p>9 地域や家庭と連携した教育環境の整備</p>																																	
<p>学校は、こどもの安全を守る環境の整備を進めるとともに、安全教育（生活・交通・防災など）に取り組んでいると思いますか。</p>	<p>学校は、地域や家庭の人と協力して、授業や行事などの教育活動を進めていると思いますか。</p>	<p>考察：「安全・安心な学校づくり」については、</p>																																
<table border="1"> <caption>Item 8: Safety Education</caption> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Yes (Blue)</th> <th>No (Orange)</th> <th>Other (Grey)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>40%</td> <td>55%</td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>児童生徒</td> <td>55%</td> <td>40%</td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>50%</td> <td>45%</td> <td>5%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Yes (Blue)	No (Orange)	Other (Grey)	保護者	40%	55%	5%	児童生徒	55%	40%	5%	教職員	50%	45%	5%	<table border="1"> <caption>Item 9: Collaboration with Community</caption> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Yes (Blue)</th> <th>No (Orange)</th> <th>Other (Grey)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>45%</td> <td>50%</td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>児童生徒</td> <td>50%</td> <td>45%</td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>55%</td> <td>40%</td> <td>5%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Yes (Blue)	No (Orange)	Other (Grey)	保護者	45%	50%	5%	児童生徒	50%	45%	5%	教職員	55%	40%	5%	<p>【2】以下の回答が少なくはないことから、例えば、安全点検に児童や保護者の声を取り入れる等、より一層の安全教育の充実に努めていきたい。昨年度のアンケート項目であった「家庭や地域との連携協力」の結果と比較してみると、保護者による【4】や【3】の回答が2割近く増加している。これは、行事等での規制が緩和されたことも要因であると考えられる。今後は、保護者はもちろん地域の力も取り入れていく環境づくりに努めたい。</p>
Category	Yes (Blue)	No (Orange)	Other (Grey)																															
保護者	40%	55%	5%																															
児童生徒	55%	40%	5%																															
教職員	50%	45%	5%																															
Category	Yes (Blue)	No (Orange)	Other (Grey)																															
保護者	45%	50%	5%																															
児童生徒	50%	45%	5%																															
教職員	55%	40%	5%																															

(4) こどものいのちと権利の擁護

<p>10 こどもの最善の利益を守る環境づくり</p>																		
<p>学校は、こどもの意見を反映させ、こどもの権利を守るとともに、こどもや保護者が相談しやすい学校づくりに取り組んでいると思いますか。</p>																		
<table border="1"> <caption>Item 10: Best Interests of Children</caption> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Yes (Blue)</th> <th>No (Orange)</th> <th>Other (Grey)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>30%</td> <td>65%</td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>児童生徒</td> <td>40%</td> <td>55%</td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>55%</td> <td>40%</td> <td>5%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Yes (Blue)	No (Orange)	Other (Grey)	保護者	30%	65%	5%	児童生徒	40%	55%	5%	教職員	55%	40%	5%		<p>考察：児童・保護者ともに【4】や【3】の回答が80%を超えていたが、学校目標に掲げた「自分たちで気づき、考え、行動できる子どもの育成」と照らし合わせて考えると、決して高い評価であるとは言えない。今後は、学級活動や委員会活動、代表委員会等の機会を有効活用しながら、自己決定の場を意図的に仕組んでいきたい。また、子どもや保護者が相談しやすい学校づくりをめざして、SCや心のサポート相談員の活用を周知するとともに、担任以外でも気軽に応じる準備があることを積極的に発信していきたい。</p>
Category	Yes (Blue)	No (Orange)	Other (Grey)															
保護者	30%	65%	5%															
児童生徒	40%	55%	5%															
教職員	55%	40%	5%															

来年度の具体的な取組について

- 学校と保護者、地域が一体となって子どもたちに関わっていきけるように、学校の取組や様子を学級通信等でより積極的に発信したり、地域や保護者、児童の声を取り入れられるような仕組みを構築する。
- 「子どもも教師も輝く校内研修」として取り組んできた校内研修の柱の中に「子ども主体の授業づくり」を据え、個別最適な学びと協働的な学びの視点を含めて、授業の在り方を見つめ直す。
- 多様性について教師が学び、児童の理解を促していくことで、自他を尊重する心を育て、全ての児童が安心して登校できる学校や居場所づくりに取り組む。

小中学校関係者評価

- 子どもたちが笑顔で「おはようございます」「行ってきます」「ありがとうございます」と、明るいあいさつをする姿が多く見られる。
- 高学年の子どもたちが、自主的に「手伝いをさせてください。」と声を発してくれたことがあり、とても嬉しく、頼もしく感じた。
- 運動会や学習発表会等の学校行事を参観していると、児童の主体性を大切にされた教師の指導がなされていることが伝わってきた。
- 数多く発行されている「学校だより」や「ホームページの更新」により、学校での出来事や子どもたちの様子が伝えられ、身近に感じる事ができた。